

国是

左手の天秤で重きとする誰かのために、右手に持つ剣を掲げる。
「白にして秩序」は、そう在ろうと思います。

そしてまた、英雄の隣にはいつ何時でも良き理解者たる脇役がいました。
それは相棒と呼ばれることもあれば、介添え人と呼ばれることもあったでしょう。

我が都築藩国はそう在ることを国是とします。
ストーリーの中心を支え、ハッピーエンドをもぎ取る為に。

” 良き脇役となれ、良き英雄の介添え人となれ。 ”
